

会 議 録 （要旨）

会 議 名	行政評価委員会第21回行政改革推進分科会
開 催 日 時	令和5年5月23日（火） 午前9時から午前10時05分まで
開 催 場 所	瑞穂町役場 庁舎 1階 小ホール
出 席 者 及 び 欠 席 者	出席者：石川任分科会長、中村副分科会長、関谷委員 欠席者：石川淳委員、根岸委員 事務局：宮坂企画部企画政策課長、渡辺企画推進係長、企画推進係鈴木
議 題	1 分科会長及び副分科会長の選出について 2 第6次行政改革大綱実施細目の令和4年度進捗状況について 3 その他
配 布 資 料	・（資料1）行政改革の実施状況の概要（主な取組事例） ・（資料2）第6次瑞穂町行政改革大綱実施細目令和4年度進捗状況等報告書総括表 ・（資料3）第6次瑞穂町行政改革大綱実施細目令和4年度進捗状況等報告書個表
傍 聴 者	なし
審 議 経 過 （主な意見等を原則として発言順に記載。同一内容は一つにまとめた。）	1 開会 分科会長が選出されるまでの間、企画政策課長が進行することとし、会議に際し、定足数に達していること及び会議の公開について確認した。 2 議題 （1）分科会長及び副分科会長の選出について 協議の結果、分科会長に石川任委員、副分科会長に中村委員が選出された。 （2）第6次行政改革大綱実施細目の令和3年度進捗状況について ○事務局から資料の確認と配布した資料に基づき説明、報告した。また、本分科会での意見については、6月1日（木）開催予定の行政改革推進本部会議において、町職員への報告を行うことが説明された。 ○事前質問並びに事務局の回答 （石川分科会長からの事前質問） 資料3の3ページについて、情報発信について、数多く取り組んでいることについては、評価しているが、魅力ある観光資源の開発・整備についても必要だと思う。町としての意見を伺いたい。 （事務局回答） 令和4年度に新たに開発した観光資源についてはないが、町公式キャラクター「みずほまる」を新たな観光資源として位置づけ、様々な取組を進めている。昨日に横田基地で開催された友好祭では、みずほまるが参加し、多くの反応があった。また、例年開催しているフォトコンテストについては、新たな観光資源を発掘するとう目的を持って取り組んでいるほか、文化財の案

内看板の新設や原種シクラメンの育成など、今ある資源の魅力を高める活動を継続して実施している。

（石川分科会長からの事前質問）

資料３の５ページについて、瑞穂町明るい選挙推進協議会との協働施策等に関する記述を拝見したが、町における投票率の低さについて問題意識を持っている。町として改善のためにどのような取組を行っているのか。

（事務局回答）

町の選挙管理委員会としても、課題として認識している。改善の取組としては、町施設や各イベントでのチラシの設置や配布、ＳＮＳを利用した情報発信に加え、期日前投票所を３カ所設置するなど、様々な取組を行っている。

また、総務省が実施した調査において「子供のころに親の投票についていった経験のある人は、その後の投票率が高い。」との結果が出たとの報告があるため、幼児・児童向けの選挙啓発グッズを作成・配布するなど、若い世代への啓発活動を継続的に実施していく。

（石川分科会長からの事前質問）

資料３の１８ページについて、町営東長岡住宅について、高層階に居住している高齢者が、施設にエレベーターが設置されていないことで、外出する意欲を失っていると聞いている。施設へのエレベーター設置について、町の検討状況はどうなっているか。

（事務局回答）

令和４年度に町営東長岡住宅長寿命化計画を策定し、今後１０年間の施設管理についての計画を示している。計画の策定段階に実施した入居者へのアンケートにおいても、エレベーター設置の要望をいただいていたため、様々な方法を検討した。しかし、設置場所の確保、工事期間中における日常生活への影響、低階層入居者への事業効果の低さ、設置費用が高額であることなどから、この１０年間の間には、事業計画には反映しないという結果となった。

高齢者に対する支援としては、見守り支援や健康事業などの福祉施策によって今後も対応していく。

（根岸委員からの事前質問）

資料１の取組み事例１「ＤＸの推進」について、ＤＸ導入によって業務が効率化し、町職員のワークライフバランスの向上にも貢献し得るものと思うため、さらなる導入を期待している。

（事務局回答）

町としてもＤＸを推進するにあたって、業務効率化に繋がらなければ意味がないと考えている。効果がないものについては導入を見送るなど、導入による効果の検証を実施しながら進めていきたい。

（根岸委員からの事前質問）

資料３の１ページ目について、広報の重要性については理解している。特に、若者世代からの意見聴取は、今後のまちづくりに向けて、とても重要だと考えている。そのため、若者世代からの意見がより聴取できる体制の整備も検討できるのではないかと考えている。

（事務局回答）

庁内の会議においても、若い世代からの意見については、積極的に聴取することが重要であるとの発言は多く出ている。情報発信については、SNS等を活用している事例も増えているが、意見聴取などへの活用も検討していきたい。

また、企画政策課で実施している小中学生議会では、学生に対して議会や行政についての理解を深めてもらうという目的だけではなく、子供たちが感じている問題意識や町への要望を知り、施策に反映する機会にもなっている。

（根岸委員からの事前質問）

資料３の７ページについて、公共施設マネジメントにPPP/PFIの導入を検討することは有意義かと思う。他方で、令和７年度までの導入を目標とする場合、令和５年度までに実施可能性のある事業を選定する必要があると思う。既に下水道事業の対応可能性も検討されているかと思うが、何らかの取組を行うことが望ましいと思う。

（事務局回答）

下水道事業については、昨年度の行政評価委員会の外部評価において、施策評価をしていただいた。その中で長岡１号幹線の工事について説明をさせていただき、PPP/PFI導入の検討もさせていただいたが、国及び都の補助金の確保することができたため、業務委託という形で事業を実施している。

なお、令和５年度については、昨年度から実施している高齢者福祉センターの改修事業において、行政の考えのみで進めるのではなく、民間事業者と対話を行う「サウンディング」を実施する予定。PPP/PFIへつなげる手法の一つだが、導入の可否においては、事業の進捗とともに検討していく。

（根岸委員からの事前質問）

資料３の１０ページ及び１１ページについて、窓口の利便性向上について、外国籍の住民が増える中で、現況では何か国語の「外国語遠隔通訳」に対応しているのか伺いたい。また、多様な文化的背景を持つ方々とのまちづくり（多文化共生社会）に向けた町の取組があれば、伺いたい。

（事務局）

外国語遠隔通訳については、健康課の保健センターにおいて９か国語の母子健康手帳を交付している。また、町で作成・公開している「子育てナビわくわくみずほ」というサイト及びスマートフォン用のアプリでは、翻訳機能を利用することができるほか、窓口にタブレットを設置し、個別相談支援の

際に外国語での遠隔通訳ができるサービスを導入している。

○各委員からの意見及び質問並びに事務局の回答

(関谷委員)

公衆トイレについて、午前8時から午後5時まで開放していて、それ以外の時間ではカギがかかって使えない所があるため困っているという声を聞いた。安全面のこともあると思うが、どのように運用しているのか伺いたい。

(事務局)

場所によっても運用の方法は異なっていると思うが、衛生面や防犯上の観点からの運用になっていると思われる。箱根ヶ崎駅の東西に設置している公衆トイレでは、便器や備品へのいたずらが行われていることもあるため、各所の環境も考慮に入れて検討していく。

(関谷委員)

元狭山ふるさと思い出館について、利用者が少ないため、現状の図書館のみの利用だけでなく、他の用途でも有効活用できれば良いと思う。

(事務局)

元狭山ふるさと思い出館については、東京に編入される以前の元狭山村役場を復元し、図書室の分室として利用を開始した。昨年度から策定を進めている個別施設管理計画においても今後の管理の方向性を示していくが、第三小学校及び機織りのグループなどから活用したいとの要望も挙がっているため、様々な方法を検討していく。

(関谷委員)

昨年度の行政評価委員会の外部評価で、箱根ヶ崎駅東西自由通路へのストリートピアノの設置について取上げさせていただいた。その後、担当課に数回話し合いの場を持っていた。その中では、ピアノの管理の問題や経費の問題などについての説明を受けているが、SNS等で活発にPRをいしていけば、若い人たちにも町の魅力を発信できると思うので、ストリートピアノの企画が進んでいけばいいと思っている。

(事務局)

ストリートピアノについては、都内の各市町村での設置がメディアで取り上げられている情報を目にしている。まだ具体化に向けた議論は必要だと思うが、昨年度から箱根ヶ崎駅西口の公有地を活用したイベントに関連させることも検討していきたい。

(中村副分科会長)

公衆トイレについては、北海道の釧路市ではトイレ対策のサービス向上協議会があり、ホテル、スーパーなどが一般利用で開放をしている。極端な言い方かもしれないが、全てのサービスを行政が行う必要はないと思っている。

る。

ある試算では、町の人口がこの先減少するとの試算が出ており、行政を担う公務員の定員充足率が6割程度なると言われている。第5次長期総合計画でも様々な目標が書かれているが、全てのニーズを満たすことは難しいため、長期総合計画の見直しやその準備をする必要があると思う。

(事務局)

公衆トイレについては、釧路市と瑞穂町での環境の違いがあるため、同じような取組は難しいと思うが、行政単独ではなく、様々な方に協力いただく方策も検討していきたい。

また、長期総合計画については、5年ごとに前期、後期と別れている。後期5年の見直しは行うため、現状の分析も含めて、見直しに向けた準備を進めていく。

今後については、人口減少については全国的な問題となっているが、町としては多摩都市モノレールの延伸を明るい材料として捉えている。その効果をさらに高めるためにもシティセールスに力を入れ、町の魅力をアピールしていくことが必要だと考えている。

(石川分科会長)

一昨年度にみずほモールが閉店した。周辺地域での買い物事情が不便となったため、商店街の活性化も必要になっていると思うが、町としての取組はどうなっているか伺いたい。

(事務局)

周辺地域での買い物事情に不便されている状況については、理解している。食料品を扱っていない民間の事業者が、駐車場を開放して食料品の臨時販売を行っていたり、地域の商店が売り場面積を増やしていたりなど、地域内で対応しているとの情報は聞いている。

今後については、具体的な方針等はないが、DXの推進やモノレール延伸など様々な事業と合わせて、各地域の活性化や利便性向上について検討していきたいと考えている。

(3) その他

○事務局及び各委員からの意見及び報告事項なし。

3 閉会

閉会 午前10時